

水たまり

私は立ち止まる

雨上がりの涼しい光が散らばる道で
きれぎれに青い空が映り
まぶしい日が半分きらめく道

そのまばゆいぐちゃぐちゃの泥濘の中
男がうつ伏せになり、まばゆくきらめく
その死の、洗われるような美しさは
小さなニンフ等のさざめきの故であろうか

髪の毛からひとしづく一滴、たま珠がこぼれる、光も
こぼれる、これがまばゆい宝石の流れの
音符のひとつ、ニンフがまた騒ぎ出す・・・

男は人知れず死んだ、幸福に

よしんば、このニンフ等のいたずら悪戯によるものとて・・・
私はそのままに歩み去る

(1982.4.12)